

Sophia English Language Department Alumni Association

E.L.D.A.A. News

上智大学英語学科同窓会会報

No.
52

発行日：2011年9月7日

発行者：田中 真 / 編集者：小笠原 宏司 / レイアウト：鈴木 博文

新生SELDAA、2年目に向けた思い

上智大学英語学科同窓会会長 田中 真

東日本大震災で被害にあわれた方々に深くお見舞い申し上げます。あの日は都内のオフィスにいましたが、今までに経験したことのない揺れでした。その後、次々と明らかになる惨状には目を覆うばかりでした。被害にあわれた地域の日も早い復興を祈るばかりです。

SELDAAのかじ取りを任された最初の一年はあっという間に過ぎました。その間の活動状況は総会資料をご覧ください。前常任委員会からの引き継ぎにあたり、想定外の問題もあり、その解決に時間を要したこともありましたが、今後同様な問題を再発させないため、会則の改正も行いました。以前から述べているように、現SELDAAはソフィア会の中で最大級の会員数を誇る同窓会であり、その規模を生かした活動や貢献が求められます。昨年度より、上智学院、英語学科、ソフィア会などの連携を強めるべく、各常任委員のコンピテンスを生かした活動を進めてきました。今年度以降もその方針を変えないことと、さらに前へ進む所存です。

具体的な活動予定は、SELDAAホームページやソフィア会メールニュース、あるいはフェイスブックで周知してゆきます。今のところでは、現役向けのセミナーや、ソフィア会と共催の講演会などを予定しております。ご期待ください。また、来年度の「オール英語学科の集い」の準備も順次開始します。

当面の課題は、総会でも取り上げられたように、会費の納入状況が芳しくないことです。将来にわたり安定した同窓会活動を継続するためにも、定期的な収入が求められます。昨年度より、会報のウェブ化に踏み切りましたが、そのため、振込用紙を送らなくなったことが原因との声もありましたが、一昨年度までの会報郵送費用と会費納入額をみると、その収支は赤字です。従い、別の視点から問題解決を図らねばならず、常任委員会でも論議を続けています。会員の皆様に対して、同窓会活動のできる限り「見える化」してゆきますので、ご理解賜りますようお願いいたします。



SELDAAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。下記の「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。ご協力いただき、会費の納入をお願いいたします。

会費納入のお願いと納入方法

SELDAAは、会長の運営方針にもあるように、従来の同窓生間を対象とした活動に加え、上智学院、ソフィア会、現役学生、他学科同窓会など多方面にわたって交流するよう計画しています。そのためには、会員の皆様からの会費をもとに長期的に安定した収支計画を立てることが前提となります。

今年度は既報のとおり、現役学生を対象にしたセミナーを2回実施いたしました。来年度からはそれに加え、外部講師の招聘や英語学科教員による講演会、その他卒業生、現役学生を交えた交流の場作りなどの実施、および後輩のための上智学院への寄付活動などを計画しています。さらには従来から実施されてきた、会員が企画する勉強会や講演会への支援活動も前向きに進めていく所存です。

会員の皆様からお預かりした貴重な会費は、厳正かつ適正に管理し、透明性を持って運用させていただきますので、同窓会活動へのご理解、ご協力をよろしく申し上げます。

【会費の納入方法】

会報のウェブ配信にともない、従来、会報とともに郵送していた振込用紙による納入方法をあらため、下記銀行口座への振込みによる納入に変更いたします。ただし経過措置として当面の間、従来の振込用紙による納入にも対応いたします。

詳しくはSELDAAホームページをご参照ください。
(<http://seldaa.net/>)

振込先：三菱東京UFJ銀行京橋支店
普通口座 No.1173610
口座名義：上智大学英語学科同窓会

振込みに際し、会員氏名の前に卒業年（西暦）をご記入ください。

（例：2001ジョウチタロウ）

また、入金処理を円滑に行うため、振込み後、SELDAAホームページにある「卒業生連絡フォーム」を用いて、送金の旨をご連絡ください。

会費の納入状況については、同じく「卒業生連絡フォーム」からお問合せください。できるだけ速やかに回答いたします。

英語学科の今と将来

上智大学外国語学部英語学科教授 東郷 公德

はじめに

英語学科の教員として赴任したのが1992年、28歳の時だった。あれから20年の時が経とうとしている。僕も11月で48歳。長男が大学を卒業する年になっている。

この20年の間に、英語学科は大きく変わった。我々がお世話になった先生方の多くが亡くなった。そのほとんどは神父さんたちだ。思いつくままに名前を挙げてみる。

(敬称略) メイスン、ラブ、マケックニー、ウェバー、ニッセル、グラチアーノ、楠瀬。懐かしい先生方の顔や声や仕草がいまも思いだされる。

しかし、まだ今の英語学科には1980年代の空気が幾分は残っているかも知れない。それは当時からずっと教えている教員がまだ全体の半分くらいはいるからだ。それが今後5年の間に状況は大きく変わる。来春3月以降、引退する予定の教員を各年ごとに並べてみよう。

2012年3月	Deely、丹野	
2013年3月	Petite、Britto	
2014年3月	吉田、Jacques	
2015年3月	Cure、Milward、笠島	
2016年3月	石川	(再び敬称略)

なんと、今後5年間の間に学科教員のほぼ半数にあたる10名が引退するのだ。5年後、どんな教員たちが新たに加わっているのか、いまは想像すら出来ない。確実なことは、英語学科が大きく変わるだろう、ということだ。そこで、ここでは、今の時点で分かっていることや話題になっていることを並べて、英語学科がこれからどうなっていくのか、分かることも分からないことも一緒に書き出して、考えてみたい。

1. S.J.教員の退場

2015年にキュレー先生とミルワード先生が引退すると、イエズス会士の教員はいなくなる。イエズス会士以外の聖職者の教員もいなくなる。英語学科教授会が完全に世俗化することになるのはほぼ確実である。カトリックの匂いが感じられなくなる、というのは上智大学全体の抱える問題だ。これからの卒業生たちには、クルートウルハイムでの結婚式をお願い出来る神父さんたちがいなくなることになる。

2. 学科科目の完全英語化

ここ数年、学科内では、学科科目を原則として英語で教えることにしよう、という意見が高まっている。学生により高い英語運用能力を身に付けさせるため、というのが理由だ。僕自身はこの方針に反対だ。英語学科には、英語だけでなく日本語も出来るバイリンガルな人材を養成する義務がある。日本語でも学問的な内容が議論出来るように学生を育てなくてはならない。

更に、近年、入試の面接が英語のオーラルコミュニケーション能力をはかる試験の一環となっていることもあり、英語学科では、受験時に英語が話せない受験生を受け入れないようになっている。その結果、英語は話せるけれど、学問的な関心はほとんどない学生が従来以上に増えている。英語学科は、英語だけでなく、日本語教育

にも力を入れる必要がある。同時に、入学時には英語を流暢に話せない海外体験の乏しい学生たちにも英語力を付けさせるという基本的な仕事を放棄してはいけないと僕は考えている。けれども、僕の意見は今の英語学科では少数意見なので、近いうちに、東郷の授業以外は全ての英語学科の科目において英語で授業が行われるようになるかも知れない。

3. 地域別コースから専門分野別コースへ

学科内の専門科目は、現在、①英語(言語・コミュニケーション)研究、②アメリカ研究、③英国・英語圏研究という3つのコースに分かれている。これに加えて、④ヨーロッパ研究、⑤言語学研究、⑥国際関係研究、⑦アジア文化研究という4つの学科外開講のコースを含めて7つのコースが専門科目として提供されている。

このうち、学科内の3コースを近い将来再編成して、①言語・コミュニケーション、②歴史・社会科学、③文学・メディア(映画)という専門分野別のコース分けに変更することになっている。だから、今後の教員採用人事も、アメリカを専門とする教員の後任は必ずアメリカの専門家を取る、ということにはならなくなる。この点でも、学科の内容は大きく変わるだろう。

4. 一般外国語教育センターへの人員割譲

現在、吉田研作教授がセンター長を務めている一般外国語教育センターは、大学全体の語学教育を行うという重要な役割を担っているにも関わらず、専任教員なしで、独自の人事権も持たない、という極めて中途半端な組織である。これを、人事権を持つ、専任教員が存在する組織に変えるということは長年の課題であったが、来年度には、この懸案課題が実現するかも知れない。ただ、そうすると、そこで必要な専任教員の枠は、既存の学部学科から割譲することになる。当然、英語学科からも1~3名くらいの教員枠をセンターに譲ることになるだろう。実際に教員が異動する可能性もある。

5. 英文学科との統合、再編の可能性

外国語学部の英語、独語、仏語学科と、文学部の英文、独文、仏文学科をそれぞれひとつにまとめてはどうか、という案は20年以上前から取りざたされ続けて来た。だから、全く新しい話しではないのだが、ここに来て、大学執行部内で、大学全体の組織再編の一環として、この統合計画が俄かに力を強めつつある。6つの学科では、それぞれが同じような語学の基礎科目を1・2年次に開講しており、この部分を別に分けていることは大学全体としては非効率的である。また、文学に対する需要は、実際のところ極めて低く、英文、独文、仏文に入って来る学生たちの中で、本気で文学を学びたいと考えているのはごく一部である。そうした理由から、この6学科を統合しようというのがこの案の趣旨である。更に、統合後は全体の規模を縮小し、それによって生まれる余剰教員枠を使って、新たな学部、学科を作ろうとしている。こうした大掛かりな組織改編を行うには、向こう3~5年間に起こる団塊の世代の教員たちの大量退職の機会を使うし



SELDAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

かない。だから、大きな変革を行うとしたら、今後数年の内に、急激に、かなりの軋轢を生じさせながら行うことになるだろう。

6. 大学全体の学生定員増加と新キャンパス購入、新学部の創設

上智大学の執行部では、いま大学規模を大きくすることが悲願になっている。その第1の理由は、経営を安定させる為には、今の1万人という学生数は中途半端で、規模を大きくするしかない、ということ。第2の理由は、大学の主な収入源である授業料収入に占める人件費の割合が上智大学では8割と極めて高くなっている。これを6~7割としたい、その為には、教員の数を減らすか、学生の数を増やすのだが、上智はいま後者の道を選択しようとしている。いずれにしても、上智大学はこれまでの少人数教育重視という看板を降ろそうとしている。

新たに増やした学生の受け皿として、合わせて2,000人規模の新しい学部を二つ作ることが計画されている。同時に、その設置場所として、四ッ谷キャンパス以外に新たなキャンパスを探す努力が行われている。実際、この2年間に、有明と豊洲という共に東京湾の臨界地域にある土地を上智大学は購入しようとした。結局、両方とも上手くいかなかったが、新キャンパス購入計画はいまも進行中のようなのである。

ここでいちばんの問題は、新しい二つの学部を作る、ということはほぼ決まっているけれど、それがどんな内容の学部になるかについては、ほとんど決まっていない、ということだ。お金と土地の問題だけが独り歩きして、肝心の大学の理念や教育の中身についての議論は全く置き去りにされている。これが上智大学の現状である。この件についても、もしかしたら数年のうちに大きな展開があるかも知れない。しかし、いまのところ、それがどんな規模で、どんな内容になるのか、全く予想がつかない。

おわりに

話が英語学科のことにとどまらず、大学全体のことになってしまった。けれども、英語学科の将来は上智大学の将来の中で考えざるを得ない。そして上で説明したように、現状では、上智大学が数年後にどうなっているか、全く予想がつかない。英語学科が数年後には今ある形とはかなり違ったものになる可能性も十分にある。いや、形が大きく変わらなくても、教員が入れ替わり、カリキュラムが変更され、今後5年間のうちに、英語学科はほぼ確実に大きく変化するだろう。

卒業生の皆さんにとっては、自分たちの良く知っている英語学科が存在しなくなるのは寂しいことだろう。しかし、後ろばかりを向いても仕方がない。今後起こる、大きな変化の中で、どのように英語学科の伝統を受け継いでいくか、それが我々教員にとっての課題だと思う。特に、卒業生である教員が激減する中で、僕自身のすべきこと、出来ることは何なのか、今後も試行錯誤しながら考えていきたい。卒業生の皆さんも、それぞれの経験や現在の立場から、母校、そして英語学科のあり方に対して、どうか忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。これからも英語学科への暖かいご理解とご支援のほど、どうかよろしくお願ひする次第である。

Psychological Support for Cancer Patients and Families

Shoko Tanaka (1977 Graduate)

In recent years many groups and institutions have been created to support cancer patients and their families. When I got involved in a project to build a psychological support system for cancer patients in the late 1990s, there were only a few of them in Japan.

Dr. Fumiyoshi Takenaka, then a surgeon, at the Red Cross College of Nursing, and the group of researchers in nursing, psychology, and medical sociology requested that I organize a research trip to visit different types of psycho-social care and support systems in the U.S. I introduced them to self-help groups, hospitals, nursing care facilities, and non-profit organizations (NPOs); all of which provided psycho-social care and support services in cities, such as Pittsburgh, New York, Los Angeles, and San Francisco.

Later in 2000 at the Wellness Community in Santa Monica, California, Dr. Takenaka and I received training to become "facilitators" to manage groups of cancer patients and their families. The Wellness Community, an NPO, which has 24 branches nationwide, provides free psychological support. Dr. Takenaka and I spent two months attending patient and family support groups. These sessions were offered 6 days a week. On another occasion I spent 4 weeks at the Wellness Community helping another group of Japanese researchers get trained.

Dr. Takenaka and the research team eventually founded an organization, the Japan Wellness in Tokyo, <http://www.japanwellness.jp/introduction.html> modeled after the Wellness Community in the U.S.

Dr. Takashi Asakura, and I, as chief editors, translated a book *Group Therapy for Cancer Patients: A Research-based Handbook of Psychosocial Care* by David Spiegel and Catherine Classen, Stanford University, Basic/Perseus Books, New York, 2000. The translation was published as *Gankanja to Kazoku no tamenno Sapooto Gurrupu* by Igaku Shoin, (「がん患者と家族のためのサポートグループ」、医学書院 2003年)

The book provides basic knowledge of the guidelines and methods to create and manage support groups. It has been used as a textbook by social workers and medical professionals and as a guidebook by cancer patients and their families in Japan.

I have cooperated with many academic researchers for various projects, but the working with the cancer patients was one of my favorite and most rewarding experiences.

(田中 祥子 1977年卒業)



SELDA Aの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

上智大学英語学科同窓会 (SELDA) 2011年度定例総会報告 (抜粋)

上智大学英語学科同窓会 (SELDA) 2011年度定例総会が、2011年5月29日 (日) 午前11時から、上智大学四谷キャンパス3号館124教室において開催された。

第1号議案「総会議長の選任」では田中祥子氏 (1977年卒) が総会議長に立候補し、承認されたので、以下の要領で議事が進行した。

第2号議案「2010年度会務報告」では、田中真会長から以下の説明がなされた。

- ①同窓会組織の活性化を目指し、英語学科教員、現役学生との連携の機会を増やし、同窓会母体であるソフィア会ともコミュニケーション重視の連携を進めた。
- ②会報のWeb化。経費の圧迫要因である会報の郵送から転換。
- ③会費納入に関して、振込用紙の郵送形式を取り止め、ATMでの納入に転換。
- ④SELDAホームページの更新頻度を高め、facebookにもページを設定。Push型の情報提供を促進。
- ⑤現役学生を対象とする「本音の仕事とキャリアセミナー」を2回開催。卒業生による実社会での体験の共有を図る。
- ⑥英国ケンブリッジ大学Lucy Cavendish College短期研



修への奨学金支給。

- ⑦会員名簿の管理にソフィア会が使用する管理ソフトをベースにSELDAの管理システムを構築。リアルタイムでの会員の名簿を管理できる体制へ。

第3号議案「2010年度決算書承認の件」では、田中会長から「収支計算書」に従い説明がなされた。また藤代芳正会計監査員から、会計監査を行った結果、適正に処理されている旨の報告があり、審議の結果、出席会員の過半数がこれに賛成し、2010年度決算書は、報告の通り承認された。

第4号議案「2011年度会務計画および予算案承認の件」では、田中会長より「予算案」に従い説明がなされ、審議の結果、出席会員の過半数がこれに賛成し、原案どおり承認された。

第5号議案「上智大学英語学科同窓会会則改正案議決の件」では鈴木博文常任委員から趣旨および改正内容の説明がなされた。

会則改正の主なポイント

- ①事務所所在地の明文化 / 第2条
- ②時流に合わせた事業内容の修正 / 第4条
- ③役員の職務、選任、人数および任期の明確化 / 第7条、第8条、第9条、第10条、第11条、第13条、第20条
- ④定例総会の開催時期および招集方法の修正 / 第12条
- ⑤常任委員会の構成の明文化 / 第16条
- ⑥活動の明確化およびそれに伴う条文の整理 / 第6章、第7章
- ⑦支部設立 / 第25条
- ⑧サークル設立 / 第26条
- ⑨現会則条文の不備の修正 / 第6条、第13条、第17条、第28条

審議の結果、出席会員の過半数がこれに賛成し、原案どおり可決成立された。

以上

詳細および2010年度収支計算書・2011年度予算案はSELDAホームページをご覧ください。

“本音の仕事”とキャリア探しセミナー報告

SELDA副会長・事務局長 中村 寛

2010年10月20日 (水)、11月24日 (水)、2011年7月13日 (水) と3回にわたり、英語学科とSELDAの共催により、東郷公德教授の協力を得て、主に英語学科3年生を対象としてセミナーを開催いたしました。3回を通じて延べ30名近くの学生が参加しました。残念ながら第3回は、夏休み直前、期末試験中で学生参加者はわずかでしたが、学生からの熱心な質問を受け、パネラーの方々も真摯に答えていただきました。

SELDA News No. 51で既報の第1回、第2回パネラー陣に加え、第3回は次の方々パネラーとして参加いただきました。伊藤麻衣子さん (00外英、スイスインターナショナルエアラインズ客室乗務員)、ピヴェット久美子さん (01外英、ボストンコンサルティンググループ・マーケティング&コミュニケーションズ広報)、石坂昌賢さん (02外英、世田谷学園中学高等学校英語科教諭)、水野尚紀さん (02外英、ラルフローレン・リアルエステート・マネージャー) の4名です。

パネラーの方々も、自分の経験や体験を現役学生と共有することで、自らのキャリアを見つめ直すきっかけになるのであれば幸いです。今後も、現役学生のためにさらなる企画を催していく予定です。各界でご活躍中のビジネスパーソンのみならず、卒業後数年の若手の方々にも、より一層のご協力をお願いいたします。お話しただいたパネラーの皆さん、後輩のために貴重なお時間を作っていただき、本当にありがとうございました。



SELDAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

2011年度オール英語学科の集い 5月29日（日）開催

5月29日（日）、四谷の母校のキャンパスにおいて、恩師、旧友との「再会」、更には現役大学生と触れ合う機会として、「オール英語学科の集い」が開催されました。

当日は、英語学科草創期に学生だった大先輩にも多数参加いただくことができ、世代を超えて、英語学科の歴史と同窓生としての共感と絆を強く感じる時間を過ごすことができました。



12:00 ～「再会の場」

本年度は、3号館123教室にゆったりと昔話に花を咲かせる場所が設定されました。アルコールや軽食もSELDAから提供され、この会場で「クラス単位のミニ同窓会」を開いた皆さんにも喜ばれたようです。

英語学科長の石川彰先生より「再会を喜ぶ乾杯」のご発声をいただきました。

13:00 ～「英語学科草創期を語る」

小林康司さん（1959年卒）、長谷川幹夫さん（1962年卒）、長谷川真弓さん（1963年卒）、元SELDA会長で、現在ソフィア会副会長の石川雅弥さん（1965年卒）の4名の大先輩をお迎えして、英語学科で学ばれた頃のエピソード等をお話いただきました。現在も、仕事や趣味に英語を活用されており、先輩の皆さんの知性とエネルギーに同窓生も現役学生も大いに刺激を受けました。



15:00 ～「Summer Teaching Program (STP)報告会」

43年目を迎えるSTPの報告会では、2011年度STP会長富永麻美さんを中心に、下関、小野田、室蘭、静岡、徳島、足利、カンボジアの各代表が、各地域の2010年度の報告を通じて、特性や英語指導への思いなどを語ってくれました。

今回の「オール英語学科の集い」を準備段階から手伝ってくれた彼らは、“今時の学生”とは思えぬ非常にしっかりとした印象で、これからの英語学科を盛り立ててくれるだろうという強い期待を抱かせてくれました。今後もSTPの更なる発展を支援していきます。



15:30 ～「フィナーレ」

SELDAの田中真会長と常任委員の鈴木博文さん、さらには英語学科教授、吉田研作先生のギターと歌でフィナーレを迎え、また来年の再会を誓い合いました。



SELDAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

デレック・ジャコビの「リア王」を観て、聴いて

— 東京経済大学本橋哲也教授の
シェクスピア劇鑑賞ツアーに参加して —

長谷川 幹夫 (1962年卒業)

1. ドンマー・ウェアハウス劇場

RSC, ローヤル・シェクスピア劇団は、ロンドンの拠点劇場をバービカン劇場に移す1982年以前、1981年までの四年間はドンマー・ウェアハウス劇場を本拠地としていた。

そのドンマー・ウェアハウスは1990年に有能な若手演出家サム・メンデースを迎え、又1992年には演劇の独自制作劇場に成長し、大発展を遂げたのである。

2002年11月映画制作に転身した、サム・メンデースの後を受継いでこのドンマー・ウェアハウスのアーティスティック・ダイレクターに就任したのが演出家マイケル・グランデーヂであった。

今回当劇場で上演された、演出マイケル・グランデーヂ、主演デレック・ジャコビの「リア王」は前評判がよく前売り券が一年前には完売で、今回の観劇ツアーの予定には組めなかった演目であった。そのため12月3日公演の初日に販売される当日券10枚の1枚を入手すべく朝8時に窓口に並んだ。(因みに発売開始時間は10時、芝居の開演は午後7時半である。) 17年振りに襲来した寒波の吹きすさぶロンドンの早朝の街路上でのことである。

2. 「リア王」を観る時思い出すこと、靈魂のイメージのこと

手許の記録をたどって見たら、2002年3月シェフィールドで観たケネス・ブラナー主演の「リチャード三世」の演出がドンマー専属就任直前のマイケル・グランデーヂであった。リチャードの足には金属製のギブスを履かせ、足を引き摺らせる演出であった。そのグランデーヂの芝居「リア王」を今回は観たり聴いたりすることに成ったのである。

「リア王」を観るとき、思い出すことが幾つかある。パーガトリーという煉獄のこと、Nothingと言うこと、そして賛美歌を転用した聖歌660番「かみともにいまして」のことである。現在関心があって読みつつある本に「煉獄のハムレット」と言うハーバード大学のスティーブン・グリーンブラット先生が2001年に書いたものがある。この本には、死後の世界を「D」という花文字の中に表した絵が出ている。ドイツのヒューゴ・リペリン・フォン・ストラスブルグの書物からの引用である。これによると、文字「D」の中に表現された死後の世界はT字型十字架で三分割されていて、上部が天国らしき楽園で、アダムが鍬を振り上げている。二分割された下部の左半分が煉獄でエンジェルの見張りが靈魂の脱出を手引きしている。右半分に描かれた地獄の門番は悪魔でこれが嚴重に見張り靈魂の脱出を不可能にしている。この本に出てくる、靈魂のイメージは男も女も全てが全裸の人間である。靈魂は歴史的にそのように表現されてきたようだ。

ミケランジェロが1512年と1541年に描いたシステナ礼拝堂の天井画の「天地創造」の絵、及び「最後の審判」の壁画を思い起こしてみた。裸体は神をかたどり、神に似せてつくられた純粋な人間を表していた、即ち人間の靈を裸体の姿で、ミケランジェロは表現していたのである。そして、過去と現在を結びつける、時間を超越した観想の世界における人間の本质、神と人間との中間の靈

的姿を表現しているのだ。そもそも原罪を背負い込む以前のエデンの楽園の男と女であるアダムとイヴは、純粋な靈であったのかも知れない。そのように見てくると、矢張全裸の人間の姿が魂をイメージする歴史があることには留意しておく必要がある。2002年の芝居で見た亡靈たちは「ハムレット」の場合だけが例外的に甲冑を着けていた。それ以外「リチャード三世」、「ジュリアスシーザー」に出てくる亡靈は全てが例外なく裸体で下着一枚で登場したのであった。尚サンピエトロにあるミケランジェロの「ピエタ」は1499年の最高傑作である。

3. 悲劇の発端は” Nothing” である

芝居「リア王」の悲劇はIncarnation (受肉) 無き媚びと諂いの言葉 (貌言) が実は” Nothing” であることを理解しないことで生じたのだ。コーデリアが「nothing」と言ったのは、「自分には受肉無き追従のことは無い。」と主張したのである。別言すれば、受肉無き言葉、即ちNothingからSomethingが生じると認識した、リア、ゴネリル、リーガンは神を冒瀆したことに成るのだ。

リアはそれはあり得ないと自分で指摘したにも拘わらず、NothingからSomethingが生じると認めたことになる。無から有を生じることが神の創造行為であるからだ。つまり姉たちの言葉こそがNothingであるのだ。神を冒瀆したその結果がそれぞれに対する懲罰としての煉獄の試練であり、地獄落ちの結末をもたらしているのだ。全体の好演にも拘わらずマイケル・グランデーヂのNothingの解釈が不十分であることに筆者は不満を覚えた。


4. リアとコーデリアの運命そして聖歌660番

王権と領土の生前贈与を行って、本橋先生の所謂「シニフィエ無きシフィアンの王様」に成ったリアは「D」の中の上部の楽園を目指してオルバニイ宮殿、コーンウォール宮殿に隠居生活の場を求めた。出掛けて見たら両方の門番は悪魔でありそこは地獄であることが分かった。仕方なくリアはヒースの原野と言う煉獄へ飛び出さざるを得なかった。この煉獄は將に聖歌660番の二番「荒野をゆくときも、あらし吹くときも」の彷徨いなのだ。この荒野は、丁度ヴェローナの城外がロミオにとっての地獄であり、煉獄であるのと同じものなのだ。それはハムレット王の靈魂が、苦悩の試練を味わっているであろう煉獄をリアが追体験しているのだと見ることもできるのである。

そして、聖歌660番の一番「かみともにいまして、ゆく道をまもって」いるのが、コーデリアへの導きなのである。コーデリアには、従ってフランス王の救いもあり、結局リアも最後はコーデリアを抱きかかえてピエタを演ずるのだから、コーデリアはイエスなのだ。その終局面こそが聖歌660番の三番「御門 (みかど) に入る日まで、慈しみ深きみ翼の陰に」と重なるのである。

5. 筆者はジャコビよりもマッケランを好む

このように考える筆者は、今回のマイケル・グランデーヂ演出、デレック・ジャコビ主演の「リア王」よりも、ティム・ウォーカーほか多くの評論家が批判している、



SELDAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

2007年のトレヴァー・ナン演出、イアン・マッケラン主演の「リア王」を高く評価する。Nothingと悲劇性の解釈と演技が徹底していて、シェクスピアの作劇意図に近い解釈だと筆者は感じるからである。つまりリアが荒野で裸になるのは、単に老人の痴呆がさせる技ではなく、人間のNothing、本質的靈魂のイメージを的確に表現しているからである。従って言葉巧みに” Ian McKellen paraded in his birthday suit.”（「イアン・マッケランが生まれた姿で荒野を歩く。」）とティム・ウォーカーが表現してみても、筆者にとってはそれが空虚な響きでしかないからなのだ。

6. 今回の舞台や出演者のこと

今回の舞台は、アルメイダ劇場の白っぽい湾曲した剥き出しのコンクリートの壁にも似て、三方の壁、それに床までが薄汚れた白っぽいペイントであしらわれていた。これは空白なリアの心の内を表すものだと解釈されているようだが、筆者にはNothingを表現しているように見えた。筆者はこの芝居ではそれ程Nothingに拘っているのである。

従ってヒースの荒野の試練の場面や、盲目のグロスターが飛び降りごっこをしたドーヴァーの断崖絶壁の場面がこの狭い舞台で演じられても違和感ないのである。これは誠に不思議なことであり、この芝居全体がシェクスピアのことばのマジックで進行するからなのであろう。

グランデーチ監督は、極めて有能な役者たちを集めて一座を作り上げた。劇評家から、老いて当代第一級の名優に成ったと称えられたデレック・ジャコビは勿論、今回の一座では、「復活した救い主」と言うべき存在のケント伯を演じたマイケル・ハドレイもいた。

目があっても見えず、目を失ってはじめてものごとの本質が見える、心眼（マインド・アイ）が持てる、われわれ普通の人間一般をみごとに表現したグロスター伯役のポール・ジェッソンも光っていた。地獄の門番の悪魔でありながら、二枚舌のエドモンドを誑かすため妖艶さを振りまき、夫を平気で罵倒するストランペットのゴネリル役のジナ・マッキイ。グロスターを痛めつける場面で、狂気を発揮するリーガン役のジャスティン・ミッチェル、この二人の悪女も見事に演じられていた。お人好しでないことがなかなか表現しにくいベドラム乞食のトムを演じ、見捨てた筈の親父の救い主を結局は演じたエドガー役のギリム・リー、本心はリアには理解してもらえていたはずの道化役ロン・クック、何れも見事な演技であった。

7. コーデリアに関する解釈


独り言のような字句で書かれているが、バーガンデイ公爵の言葉に繋げた台詞の形式で記述してある。「主の平和がバーガンデイ公と共にありますように！」「あの

男の愛や結婚は、地位や財産が目当てである。自分はそんな男の妻には絶対成らない。」これはバーガンデイ以外の人々に吐かれたコーデリアの言葉であると筆者は考える。彼女が単なる内気な弱い女であるとは思えないのである。コーデリアはものごとの本質を弁え、良心のうちに神が臨在する理想の女性なのである。老いぼれた老人の軽い言葉には、お座なりな返答で十分と考える世の中でしばしば聞かれる俗説には与したくない。従って、今回のアフロ系女優ピッパ・ベネット＝ターナーの十分すぎる内気なコーデリアは頂けなかった。もっともこれは女優の演技というよりは、演出マイケル・グランデーチの解釈の問題かも知れない。尚このアフロ系コーデリアの伴侶フランス王にもアフロ系の役者が起用されていた。

8. 人間の悪行とドラマティック・アイロニー

さて悪の権化エドモンドの好演も光っていたが、この悪行とそれがもたらす悲劇の展開について考えてみたい。「オセロ」に出てくるイアゴーも「リア王」に出てくるエドモンドも、それぞれ完全無欠に近い悪巧みを練る。その奸策はなかなか露見しない。しかしこれらは、単にドラマティック・アイロニーが可能にしているだけなのである。観衆、聴衆には全てが見通せるものなのだ。だから、悪行に励む鬼の役どころは恥を忘れて白々しく、その思いのたけを実行すれば事足りるのではあるまいか。かれらの心には、神の光が差し込む隙間がないのだ。だからルシフェールと暗黙の契約を結び、悪が実行できるのだ。でも観客である神には全てがお見通しであろう。現実の世界で行われる奸知、悪行も観客の立場で全てが見通せる形而上の存在者には全てが分かってしまう、ドラマティック・アイロニーであるのかも知れない。であればこそ最後の審判も出てくるのであろう。

以上のように色々と考えさせる中味のを揃えた、マイケル・グランデーチとデレック・ジャコビの「リア王」公演であったから、これは将に傑作な芝居であったと言えるのだろう。



SELDAAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。1ページの「会費納入のお願いと納入方法」をご覧ください。会費の納入をお願いいたします。

編集後記

SELDAAの会員は、1959年卒業から2011年卒業まで、じつに52年におよぶ時代の広がりをもって構成されている。それに現役学生が加わると、さながら三世代住宅の趣きか。若い世代の新鮮な感性に触発されるとともに、先輩方の衰えぬ向上心に身が引き締まる。（HJS）

Sophia English Language Department Alumni Association

E.L.D.A.A. News

上智大学英語学科同窓会会報

発行：上智大学英語学科同窓会 〒102-8554東京都千代田区紀尾井町7-1上智大学英語学科事務室気付
Tel. 03-3238-3719 Fax. 03-3238-3910 URL. <http://www.seldaa.net>

No.
52